

今回はついに外国人も受賞者となりました。  
まず次の挨拶状を関係諸方面にお届けしました。

拝啓 中秋の候 貴台におかれましては御清祥のことと御慶び申し上げます  
さて 財団法人 東方研究会 におきましては 本年度もインド大使館と共  
同主催にて 學術及び文化活動の秀れた業績を世に広く顕彰することに致し  
ました

先般来 選考委員会において慎重審議の結果 第七回東方學術賞受賞者は

學術賞として R・C・バンデーヤ殿 (インド国立デリー大学教授)

學術賞として 勝呂信静殿 (立正大学教授)

學術奨励賞として 日野紹運殿 (岐阜薬科大学助教授)

東方文化賞として 田中敬一殿 (二宝船舶株式会社代表取締役社長)

の業績を讃えることに決定しましたので 左記の如く 顕彰式を行ないます

一、場所 イント大使館

東京都千代田区九段南二丁目二ノ十一(千鳥ヶ淵)

一、日時 平成三年十一月十八日(月曜日)午後四時

つきましては 御多用中恐縮ながら御来賓の榮にあすかりたく ここに御

案内申し上げます

敬具

平成三年十月 吉辰

財団法人 東方研究会

理事長 中 村 元

各位

追伸 式典終了後はリフレッシュコメントでおくつろぎ下さいとの伝言が大使館から  
ありました 出席の御連絡は東方研究会へ十一月七日(木)までに御知らせ頂  
ければ幸甚に存じます(電話〇三三二五一一四〇八一)御来賓の際には御手  
紙ながら受付に本書状封筒を御示し下さいますようお願い申し上げます



भारत का राजदूतावास, टोकियो  
Embassy of India,  
2-11, Kudan-Minami 2-chome,  
Chiyoda-ku, TOKYO 102  
Telex: 2324886INDIEMB J  
Phone: 03 (262) 2391  
Fax: 03 (234) 4866

EMBASSY OF INDIA  
AND  
THE EASTERN INSTITUTE, INC.

cordially invite you

to the Award Presentation Ceremony of

the Eastern Study Prize for 1991

to

Prof. R.C. Pandeya  
University of Delhi, India  
(Academic Achievement Award)

Prof. Shinjō Suguro  
Rissho University  
(Academic Achievement Award)

Prof. Shōun Hino  
Gifu Pharmaceutical University  
(Academic Encouragement Award)

Mr. Keiichi Tanaka  
President, Nihō Senpaku Co. Ltd.  
(Cultural Award)

for their outstanding achievements

on Monday, November 18, 1991

at 4.00 p.m.

at the

Chancery of the Embassy of India  
(2-11, Kudan Minami, 2 - Chome, Tokyo)

R.S.V.P.  
Eastern Institute, Inc.  
Tel. 3251 - 4081, 4082



### 中村学院院長挨拶

主催者を代表しまして、一言御挨拶申し上げます。

このたびインド大使館の御協力を得まして、共同でここに第七回東方学術賞の贈呈式を開くことができずことは、われわれの最も光栄とするところであります。本日は、朝野各方面から御多忙を御繰り合わせ、わざわざこの会場まで御来駕御臨席賜りましたこと、こゝ厚く御礼申し上げます。

財団法人東方研究会は「東洋思想の研究及びその成果の普及」ということを目的としている研究会でありまして、昭和四十五年（1970）十一月十二日付けをもって財団法人の設立許可を受けましたが、すでに二十一年に相当致します。その間、諸般の活動を続けて参りました。まことに微々たる団体では愛利升が前後区にわたる各方面の同志、篤志家の御協力によりまして次第に発展して参りました。

そしてさらに斯学の発展を計るために真に学問的意義があり、世の人々を益する恒久的な業績を遂行したいとかねがね念願しておりましたが、その一環としてインド大使館と共同主催にて『東方学術賞』を設けて、学者のすぐれた業績を世にひろく顕彰することに努めて参りました。そして本年度もインド大使館と共同主催にて、学者の優れた業績を世にひろく顕彰することに致しました。

それにつきましては、インド大使館 *Artistic Ambassador* 大使をはじめ、館員の方々の心からなる御協賛をえまして、順調に進めることができました。よて先般来諸方面より多数の識者のご意見を徴し、さらに選考委員会を設けて慎重に審議を続けて参りました。選考委員は、奥田清明殿、川崎信定殿、玉城康四郎殿、奈良康明殿、前田専学殿、水野弘元殿、山口恵照殿、山口瑞鳳殿と小生と計八人に御依頼申し上げます。その結果次の方々の業績をたたえることに致し、本日このように顕彰式を開催することになりました。

これにより第七回東方学術賞の受賞者の方々の一人お一人の功績の顕彰に移ります。

本年度からは外国人学者にも東方学術賞を贈呈することになりました。

「東方学術賞」を受賞される初めての外国人研究者となられたのは、ラーマチャンドラ・シャルマ・パンデーヤ博士であります。博士はベナレスの伝統的文法学者野家系に生まれたバラモンであります。パナラス・ヒンドゥー大学で、インド哲学・仏教学を学び、一九五七年に、学位論文 *The Problem of Meaning in Indian Philosophy* で、同大学より Ph.D. の学位を授与されました。この研究は、

文法学の言語論を取り扱った研究で、伝統的解釈・研究を踏まえた上で、パンデーヤ博士独自の哲学を展開したものでした。これはインドの哲学会に大きな波紋を起こした研究であります。また、この研究に対する評価により、デリー大学の仏教学科の教授に就任されました。その後、仏教学科長、文学部長などを歴任され、現在は、Senior Professor of Philosophy として、同大学の哲学科で学生の指導・育成に当たられております。

バンデーヤ博士の功績の一つに、難解なサインキヤ哲学の注釈書である Yuktidipika の校訂版を出版されたことがあります。この校訂版は、当初、デリー大学留学中の中田直道博士（現鶴見女子短大教授）と共に、ブリーナのバンダルカル研究所の写本とアーメダバード写本をもとに手がけられたものですが、完成されたかたちの校訂版としては世界初とも言ってよく、バンデーヤ博士のインド哲学に関する膨大な知識なしには、このテキストの出版は有り得なかつた、とさえ思えます。

また、仏教学関係では、Nāthyaṅta-vihaga-sastra の校訂版の出版があげられます。

バンデーヤ博士は、東方研究会の派遣研究者としてデリー大学に学んだ、三友量順総務・清島秀樹講師・保坂俊司主事らの指導教官として、公私にわたってご指導下さいました。彼らの質問に対して、時間を忘れてお答え下さったり、書物にはないバンデーヤ家に代々伝わる解釈・知識を伝授して下さいたことなどを、伝え聞いております。

バンデーヤ博士の数多くの功績をたたえて、財団法人東方研究会は「東方学術賞」をお贈り致します。また、「東方学術賞」を受けられます勝呂信静博士は、東京大学でインド哲学・仏教学を修められたのち、立正大学教授として多年にわたり学生の指導・育成にあたられるかたわら、同大学の法華経文化研究所長として重要な責務を果たされました。

勝呂博士は、唯識思想の研究に顕著な業績を示していらっしゃいます。特に、『初期唯識思想の研究』（春秋社・一九八九）は、綿密な研究書であります。これは、同氏の博士論文「初期唯識説の研究」の一部を出版したものでありますが、この書で、唯識学派が、歴史的人物彌勒によって創設され、無着・世親が教義を大成させ、以後多くの学匠によって異説が唱えられ分派が形成された、という教理史上の通説を綿密な文献学的考察で再吟味したもので、彌勒は実在の人物ではない仮託された開祖であり、無着がこの学派の実際の開祖であることを論じ、従来、唯識学は最古の文献として考えられた『解深密経』が『瑜伽論』編纂の一貫として作成された物である、等々従来の見解を是正する見解を展開されました。多数の唯識説の書について、それぞれの書の思想的独自性を説明されたことも大きな貢献であります。

また、日蓮宗の僧侶である勝呂博士は、祖師日蓮と彼の思想に関する著作も多く、『日蓮思想の根本思想』（教育新潮社・一九六五）『法華経の教え・日蓮の教え』（大東出版社・一九八九）などを著し、教化活動にも力を注ぐ学僧であります。

同氏の唯識思想に於ける学問的功績を高く評価し、財団法人東方研究会は「東方学術賞」をお贈りしたいと存じます。

日野紹運博士は、名古屋大学でインド哲学を研究したのち、北川秀則博士と S. D. Joshi 博士の御尽力で締結された「名古屋大学・ブリーナ大学交換留学生制度」の第三回派遣生として一九七五年九月から三年半の間インドのブリーナ大学に留学いたしました。当初、サンスクリット語の個人レッスンを受けるかたわら、同

日野紹運博士は、名古屋大学でインド哲学を研究したのち、北川秀則博士と S.D. Joshi 博士の御尽力で締結された「名古屋大学・プーナ大学交換留学生制度」の第三回派遣生として一九七五年九月から三年半の間インドのプーナ大学に留学いたしました。当初、サンスクリット語の個人レッスンを受けるかたわら、同

大学のマスター・コースのヴェーダーンタ哲学の講座を聴講し、K.P. Jog 博士から『ガウタバーダ・カリーカー』と『フラフマ・ストトラ・パーシヤ』を学び、翌年、Ph.D. コースに登録が許され、Jog 博士の指導のもとで研究を進め、学位論文である Suresvara's Vartika on Yajnavalkya-Maitreyi Dialogue を完成し、学位を取得致しました。この研究は、一九八二年にデリーの Notial Banarsidass 社から出版されており、Suresvara の著作については、いくつかの英訳はありますが、Bhad-Aranyaka-Upanisad の Vartika は、ヨーロッパの如何なる言語にも訳されてはおらず、無比の意義ある業績であります。

帰国後、南山宗教文化研究所の研究者、学術振興財団の特別研究員をへて、岐阜薬科大学で教鞭に立つことになりましたが、その間も、恩師 Jog 博士との Brhad-Aranyaka-Bhasya-Vartika の共同研究をつづけ、その結果を先述の出版社より逐次出版し、今や四冊を数えます。

- I. Shoun Hino: Suresvara's Vartika on Yajnavalkya-Maitreyi Dialogue, Brhadaranyakopanisad 2.4 and 4.5. (1982)
- II. Suresvara's Vartika on Madhu Brahmana. Edited by K.P. Jog and Shoun Hino. (1988)
- III. Suresvara's Vartika on Asva and Asvamedha Brahmana. Translated by Shoun Hino and K.P. Jog. (1990)
- IV. Suresvara's Vartika on Udgitha Brahmana (Brhadaranyakaopanisad 1.3.) Edited, translated and annotated by K.P. Jog and Shoun Hino (1991)

又、日野氏は、現在、東方学院の名古屋地区教室の講師として積極的に活躍してくれております。春秋に富む同氏の今後の発展を期待して、財団法人東方研究会は、日野博士に対して「東方学術奨励賞」を贈呈致します。

なお、学術と関係の深い文化領域の功労者に対し、その業績をたたえるようにしたいという諸方面からの要望があり、平成元年度より『東方文化賞』を設けて顕彰して参りましたが、本年は、二宝船舶株式会社・代表取締役社長、田中敬一氏にお贈りすることにいたしました。

田中氏は、第七高等学校を経て、名古屋大学工学部を卒業された昭和二十六年に、二宝船舶株式会社に入社され、実業界に身を投ぜられました。昭和39年には、御父上の跡を継ぎ代表取締役社長に就任され、社業に御精進されております。

田中氏は、曹洞宗の高僧村上素道老師に師事して禅を修めた仏教者でありまして、若い研究者をアジア諸国に派遣し、仏教思想の源流を解明し、将来のわが国の文運に資することを念願とされておられました。インド旅行中にプーナを訪れたとき、当時彼の地に留学していた阿部慈園氏（現東方学院総務）に出会ったこ

とがご縁となりまして、東方研究会の「アジア諸国派遣留学生基金」の提供者としてご協力下さるようになったのであります。この基金の援助によりまして、昭和五十七年以来、既に二十四名の研究者が、インドその他の諸国で親しく海外研究する機会を得ております。この基金援助を通じての、同氏の学術振興への貢献は、はかりしれないものがあります。

また、田中氏は、熊本県菊池郡の山奥にございます、由緒ある禅寺の聖護寺を復興させ、国際禅センターを設立させた中心的後援者であるのみならず、聖護寺ならびに瑞應寺（愛媛県新居浜市）で、留学を終えた研究者による文化講演会を定着させた方でもあります。

田中氏の多年にわたる学術・文化振興への御功績に対し、東方研究会は『東方文化賞』をもって、おむくい致したいと存じます。

以上の次第でありますので、諸方面の御賛同をお願い申し上げます。

なお副賞として加えるために、インド大使館からいろいろ記念品が寄贈されました。また、株式会社名著普及会から E. HILFSCHE 編著『Inscriptions of Asoka (New Edition)』四冊が、東京書籍株式会社からは奈良康明博士編著『仏教名言辞典』四冊が、株式会社春秋社からは中村元著『ヴェーダの思想』四冊が贈呈されました。

また、バンデーヤ博士来日に関しまして、榊法華クラブ社長、小島定直氏、ならびに副会長、小島澄三氏より、大変なご高配にあずかりました。

開催につきましては、インド大使館の方々の特別な御協賛にあずかりましたことを深く感謝しております。そのお力によりまして微力な我々の志願がこのように見事に実ったのであります。おかげさまで諸方面より祝電・御祝いなどを頂きました。ありがとうございます。

式のあとのパティーは、インド大使館の御好意によるものであります。また、報道関係はじめ諸方面の方々に御協力頂きましたことを大いに感謝致しております。そして御集まりの皆様から厚く御礼申し上げます。

ただ何分にも、我々が微力で手不足でありますために、何かと不行届きの点が多々ありましたことは、まことに申し訳なく存じますが、この点は平に御堪忍の程お願い申し上げます。そして、将来にわたって一段と活動を発展させたいと存じておりますので、今後ともよろしく御指導御後援の程願ひ申し上げます。以上、甚だ無辞を連ねましたが、これを以て御挨拶のことばとさせていただきます。

## 東方学術賞

### ラームチャンドラ・シャルマ・バンデーヤ 殿

- 一九三二年七月一六日 ベナレスに生まれる。  
一九五一年 ベナレス・ヒンドゥー大学、B.A.修了  
一九五三年 同、M.A.修了  
一九五四年 Shastri and Acarya を授与さる（文法学）  
一九五七年 Ph.D.を授与さる  
（The Problem of Meaning in Indian Philosophy）

デリー大学哲学科教授  
インド哲学・仏教学専攻

#### 著書

1. The Problem of Meaning in Indian Philosophy.
2. A Panorama of Indian Philosophy.
3. Yuktidipika.(ed.)
4. Madhyanta Vibhaga Sastra.(ed.)
5. Nagarjuna's Philosophy of No-identity.
6. Indian Studies in Philosophy.（論文集）

その他著書・学術論文・評論等多数あり

東方学術賞

## 勝呂信静殿

一九二五年生まれ

東京大学文学部印度哲学梵文学科卒業

立正大学教授

唯識学 専攻

### 著書

- |                          |       |       |
|--------------------------|-------|-------|
| 1. 『日蓮思想の根本思想』           | 教育新潮社 | 一九六五年 |
| 2. 共著『大乘仏教（アジア仏教史インド編Ⅲ）』 | 佼成出版社 | 一九七三年 |
| 3. 『初期唯識思想の研究』           | 春秋社   | 一九八九年 |
| 4. 『法華経の教え日蓮の教え』         | 大東出版社 | 一九八九年 |

### 論文

1. 「瑜伽論の成立に関する私見」（『大崎学報』第一二九号、一九七二年）
2. 「唯識説の体系の成立」（『講座大乘仏教』八、一九八一年）
3. 「アーラヤ識の語義」（『田村博士還暦記念仏教教理の研究』、一九八六年）
4. 「アーラヤ識と唯識思想」（『仏教学』第一六号、一九八五年）
5. 「法華経の成立に対する私見」（『法華文化研究』第一二号、一九八六年）
6. 「唯識学派の開祖「彌勒」について」（『仏教学』第二一号、一九八七年）

その他著書・学術論文・評論等多数あり

## 日野紹運殿

一九四八年生まれ  
 名古屋大学文学部印度哲学科卒業  
 岐阜薬科大学助教授  
 インド哲学 専攻

## 勝呂仁

一九二〇年  
 東京大学  
 立正大学  
 唯識学

### 著書

1. Suresvara's Vartika on Yajnavalkya-Maitreyi Dialogue.  
Motilal Banarsidass, 1982.
2. 共著『インドの宗教と芸術』 世界聖典刊行協会 一九七三年
3. Suresvara's Vartika on Madhu Brahmana. Motilal Banarsidass, 1988.  
(in collaboration with Prof. K.P.Jog)
4. Suresvara's Vartika on Asva and Asvamedha Brahmana.  
Motilal Banarsidass, 1990. (in collaboration with Prof. K.P.Jog)
5. Suresvara's Vartika on Udgitha Brahmana. Motilal Banarsidass, 1990.  
(in collaboration with Prof. K.P.Jog)

### 著書

1. 『日』
2. 共著
3. 『初』
4. 『法』

### 論文

1. About Suresvara's Observation on brahmavid apnoti param (TU 2,1,1).  
CASS Studies Number 4, 1978.
2. 「ヒンドゥーの宗教世界 — ヴェーダーンタ学匠の教説をめぐって — 」  
Sambhava 5号、一九八三年。
3. Suresvara's Criticism of Bhartṛprapañca's View on Liberation, as  
the Result of Knowledge-and action Combination. Aligrah Journal of  
Oriental Studies, vol. 1 no. 2. 1984.
4. Significance of the Brahman in Later Advaitin, Madhusudana Sarasvati  
Bhatariya Vidya, vol. 49, 1989.
5. Suresvara's Vartika on puruṣavidya Brahmana [1]. 『東方』第五号、  
一九九〇年。

### 論文

1. 「瑜」
2. 「唯」
3. 「ア」
4. 「ア」
5. 「法」
6. 「唯」

### その他著書

その他著書・学術論文・評論等多数あり

# 東方文化賞

## 田中敬一殿

一九二六年生まれ

### 学歴

一九四七年三月 第七高等学校理科卒業

一九五一年三月 名古屋大学法学部卒業

### 職歴

一九五一年四月 二宝船舶株式会社

一九六四年四月 同社 代表取締役

現在にいたる

### 事業歴

一九五二年四月 内航貨物船事業

一九五六年 内航タンカー船事業

一九六六年 近海貨物船事業

一九七二年 遠洋貨物船事業

一九八六年 貿易（対アメリカ）事業

一九八七年 不動産部門（於海外）事業

以上